

八郎潟町校務ＤＸ計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化し、負担を軽減することを目指し、令和５年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システムを構築した。県域で統一したシステムを、将来的には全市町村で導入する予定になっている。

八郎潟町は、「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、このシステムを令和７年４月から導入することとしており、システムの活用において、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減に取り組む。また、学習者用端末において学習振り返り支援ツール等を利用し、そのデータを校務支援システムに連携させることにより、校務系・学習系データの統合と可視化による業務の高度化を図る。これを契機に紙ベースの業務見直しや、ＦＡＸでのやり取り・押印の見直しを推進する。

多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを見直す。

また、県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図る。

校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保する。